

2023年JFS規格（フードサービス）  
ハーモナイゼーション会議



# JFS規格（フードサービス） プログラム規程の改定について



一般財団法人 食品安全マネジメント協会  
Japan Food Safety Management Association

<https://www.jfsm.or.jp/>

## JFS規格（フードサービス）プログラム規程Ver.2.0heの改定について

### 【改定の目的】

- ・JFS規格（フードサービス）のプログラム規程は、2019年12月25日に公表している。このプログラム規程は、JFS規格（フードサービス）で必要な項目のみを設定し、それ以外の項目は当時のJFS-A/B規格プログラム文書Ver.2.0の項目を準用することとしていた。
- ・JFS規格（フードサービス）の適合証明取得の組織が少なく、プログラム文書の運用では対応に  
齟齬が生ずる項目が出てきた（監査会社事務所審査、監査員・判定員の維持など）
- ・また、JFS-A/B規格プログラム文書はVer.3.0となり、さらにJFS規格（フードサービス）プログラム規程との違いが大きくなった。
- ・これらのことから、JFS-A/B規格プログラム文書Ver.3.0との整合を図り、JFS規格（フードサービス）の運用に合った改定が必要である。

# jfsm JFS規格（フードサービス）プログラム規程Ver.2.0の特徴

## （１）JFS フードサービスプログラム規程 Ver.2.0 の構成

フードサービスプログラム規程 Ver.2.0 では、プログラム文書 Ver.3.0 の改定内容に整合させるため、項番、構成をプログラム文書 Ver.3.0 に合わせている。ただし、JFS フードサービス規程としてプログラム文書 Ver.3.0 の規定と異なる項目は修正、追加をしている。

## （２）JFS フードサービス規格（案）の適用範囲

・JFS フードサービス規格は、適用する事業者で食品の製造規格とどちらを適用するか悩ましいケースがあります。実際には、給食施設などで JFS フードサービス規格と食品の製造（JFS-A/B 規格）が適用されている事例がある。業態として判断が難しい場合があるが、この適用について規定の追加をしている。

（JFS フードサービスプログラム規程 Ver.2.0 1.3.2 及び 付属書 3）

# jfsm JFS規格（フードサービス）プログラム規程Ver.2.0の特徴

## （３）JFS フードサービスプログラム規程 Ver.2.0（案）での修正項目

- ・ 監査員／判定員の力量評価 5.2 （１）③、5.3 （１）②

⇒力量評価は「監査会社の責任者もしくは監査会社の責任者が任命した者」が行うとしているところはフードサービスの対応である。プログラム文書 Ver.3.0 で位置付けている力量評価員について、フードサービス規格の力量評価員の設定が難しいと判断していることによる。

- ・ 監査員／判定員の力量維持 5.2 （２）①、5.3 （２）①

⇒原則として年 1 回以上の監査の実施を規定しているが、現状組織が少なく運用が難しい面はある。そのため力量維持研修を監査会社が行うこととしている。

- ・ 監査員／判定員（フードサービス）の試験

⇒JFS フードサービス規格の監査員・判定員試験の設定は当面難しいため、この規定は設定しない。



## JFS規格（フードサービス）プログラム規程の改定のコンサルテーション結果

### 「JFS規格（フードサービス）監査及び適合証明プログラム規程Ver. 2.0」 （改定案）ステークホルダーコンサルテーション

1. 対象者：監査会社、研修機関、監査会社・研修機関承認委員会委員
2. 期間 2023年9月26日－10月13日
3. 意見集約数  
27件（誤字、脱字の指摘も含む）  
・主だった意見は、次から示す。

# jfsm JFS規格（フードサービス）プログラム規程の改定の意見①

## 【意見】

この規程はフードサービスに特化のため「フードサービスの監査・判定に必要なテクニカルスキルと知識」と指定してしまってもよい。

- (1) セクター・サブセクター毎のテクニカルスキルと知識
- ① マネジメントシステム規格に関する知識
  - ② コーデックスHACCPに関する知識
  - ③ 適正製造規範（GMP）に関する知識
  - ④ 食品安全関連法令に関する一定の知識



- (1) **フードサービス**のテクニカルスキルと知識
- ① マネジメントシステム規格に関する知識
  - ② コーデックスHACCPに関する知識
  - ③ 適正製造規範（GMP）に関する知識
  - ④ 食品安全関連法令に関する一定の知識



**\*：修正する方向で検討する**

## jfsm JFS規格（フードサービス）プログラム規程の改定の意見②

【意見】現在は製造セクターの監査員・判定員がフードサービスセクターの監査員・判定員となると理解しているので、前提条件として5. 2 ①②③はクリア（監査実績や力量評価時期は調整必要）、追加登録時に④を追加すればよいかと思う。



現在は食品の製造セクターの監査員・判定員がフードサービスセクターの監査員・判定員となっている状況から、②、③は食品の製造セクターの監査員であれば充当しているといえる。  
①、④はフードサービスの特有の要件なので、この要件はすべての候補者がクリアしている必要がある。

## JFS規格（フードサービス）プログラム規程の改定の意見③

### 【意見】

「付属書3 ② \* : Codex HACCPが食品の製造規格（JFS-B規格）が要求している内容に適合し、組織が希望する場合、食品の製造となる場合がある」は文章として間違っているのではないか。



以下のように修正する

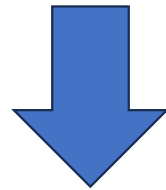
付属書3 ② \* : 食品の製造規格（JFS-B規格）が要求しているHACCPの要求事項により管理がされていて、組織が希望する場合、食品の製造セクターとなる場合がある。



## jfsm JFS規格（フードサービス）プログラム規程の改定の意見④

### 【意見】付属書 3 ②

給食施設・セントラルキッチンにおいて、調理し包材に真空パック→開封→加熱→提供する場合なども、フードサービスでOKか。  
フードサービスの基準が明確ではないと思うことがある



給食施設・セントラルキッチンは、基本的にフードサービス規格の適用範囲としているが、現在給食施設・セントラルキッチンで食品の製造セクターで適合証明を取得している事業者があること、給食施設、セントラルキッチンが製造になるという見解もあるため、フードサービスでも食品の製造でも対応できる記述にしている。

## JFS規格（フードサービス）プログラム規程の改定の意見⑤

### 【意見】

#### 5.2(1)②③

HACCP を含む食品安全に係る監査・コンサルティングの経験や監査の力量は、セクター G に該当する組織でないといけないのか。監査・コンサル経験や監査力量については、セクター C 組織での経験も対象に含めて良いか。



5.2(1)②③は、5.1（2）（3）の監査技能についての要件なので、フードサービスの監査に限らず、食品の製造（JFS-A/B/C規格）やHACCPを含む食品安全に係る内部監査、二者監査、代行二者監査、第三者監査および本プログラム規程に従って実施するJFS規格の模擬監査（適合証明は与えない）も含むことになる。

## JFS規格（フードサービス）プログラム規程の改定の意見⑥

### 【意見】5.2（2）①登録維持（フードサービスの監査員向け要求事項）

「年1回以上の監査業務を実施していない監査員は、監査会社における力量維持の研修を受講しなければならない。力量維持の研修は監査会社が設定する。」について、監査会社として監査の実績がない場合の教育はどうするのか。どのような教育が力量維持として認めていたただけるのか、例を示していただけないでしょうか。



JFSフードサービス規格の監査数が少ない状況から、監査員の力量維持のための研修は、必ずしも監査の場面での研修とは考えていない。力量維持については詳細は別途、手順等で示すことを検討したい。

## JFS規格（フードサービス）プログラム規程の改定の意見⑦

### 【意見】

5.2（１）①で、他の監査会社でセクター：Gの監査員登録が取り消しになっていた場合の対応法はどのようなになるのか（例えば新規登録の扱いになるのか）



その対象者が取り消しであっても、「過去10年以内にJFSMが承認した研修機関が実施する食品安全研修またはJFSMによる指定の研修を修了したこと およびJFSM承認研修機関によるフードサービス（セクター：G） 監査研修コースの修了を確認すること」ができていれば、初回登録要件の①はクリアしているといえる

## JFS規格（フードサービス）プログラム規程の改定の意見⑧

### 【意見】

フードサービスの監査・判定を監査会社登録後、行っていない場合、事務所監査の時はどのような内容を確認されるのか。

模擬的に何かを想定して行う必要があるのか。提出する書類が必要か。



事務所審査は「JFS監査及び適合証明に係る監査会社に対する定期審査及び臨時審査の手順に関する規程」による。フードサービスの事務所審査は、実績があったところだけを対象に実施している。模擬監査の必要はない。

## JFS規格（フードサービス）プログラム規程の改定の意見⑨

### 【意見】

参考資料に「プログラム文書Ver.3.0 で位置付けている力量評価員について、フードサービス規格の力量評価員の設定が難しいと判断していることによります。」とありますが、なぜフードサービス規格のみ力量評価員の設定が難しいと判断されているのか、想定できませんでした。

その理由を監査会社が知ることで、より適切に評価できる可能性があるので、理由も併記してはいかがでしょうか？



- フードサービスでは、監査組織数が少ない状況から、監査員としての登録維持要件を満たすことも難しく、評価の機会を設けることも難しいため、フードサービスの力量評価員は設定せず、Ver.2.1と同等な「監査会社の責任者もしくは監査会社の責任者が任命した者」が評価することとした。
- プログラム規程には力量評価員は定義していないので記述はしない。

## JFS規格（フードサービス）プログラム規程の改定の意見⑩

### 【意見】

#### 付属書 3 （1） ①

スーパーマーケットのように、一つの店舗に複数の部門（青果、精肉、鮮魚、そうざい、ベーカリーなど）がある施設の場合でも1人日で監査をすることは可能でしょうか。



このような場合、1つの適合証明範囲にで監査はできるが、監査工数は1.0人日でできるか、それ以上かかるかについては、監査会社による判断になる。

### 【意見】

#### 付属書 3（1）①

監査工数を増減することができるとありますが、プログラム文書2.1のような現地監査工数の算定式は今後検討されていますでしょうか。  
もしくはある程度、監査会社の判断に委ねられる形でしょうか。



現在フードサービスの監査実績が少ないため、監査工数の算定式を設定するには事例が足りないと判断している。食品の製造ではVer.1.1の段階とみている。今後、監査実績により、フードサービスの業態ごとの監査工数の算定式が設定できると標準化できると思いますが、今後の課題である。



# jfsm JFS規格（フードサービス） 規格要求事項、ガイドラインの改定の予定

	2023年					2024年
	8	9	10	11	12	1～
フードサービスプログラム規程(案)	プログラム規程案の作成 (事務局)	ステークホルダーコンサルテーション(監査会社等)	ステークホルダーコンサルテーションまとめ	理事会提案	公表	2024年より順次移行 (移行期限等については別途)

\* : 今後、JFS規格（フードサービス）の規格要求事項、ガイドラインの改定をすすめていきます